

特集

Special  
Feature  
Article

# 生物多様性の保全に資する 森林施業に関する講習会の開催

計画課

国有林野の管理経営に当たっては、生物多様性の保全を含む国有林野の有する公益的機能の維持増進を図ることとされており、生物多様性保全に向けた取組を一層推進することが重要となっています。このため、生物多様性の保全を確保しつつ、適切な国有林管



最上支署会議室での講義

理を実践していくことができる人材の育成を目的として、平成29年5月24～26日、山形森林管理署最上支署管内において、山形県内の4（支）署から12名の受講生が参加し、「生物多様性の保全に資する森林施業に関する講習会」を開催しました。



三脚の使い方を学ぶ受講生

初日は、最上支署の会議室において、座学を中心とした講義を行いました。講義では、①森林生態系のアンブレラ種とされている大型猛禽類（イヌワシやクマタカ）の生

態の説明、②クマタカを指標とした生物多様性の保全に資する森林管理の先行事例の紹介、③イヌワシやクマタカの調査方法や観察機材の使用方の説明などを行いました。



観察調査機材の扱い方を学ぶ受講生

2日目は、イヌワシやクマタカの繁殖地を含む国有林の周辺一帯が広く見渡せる場所において、猛禽類の観察調査を実施しました。



双眼鏡と望遠鏡を用いた猛禽類観察調査

観察調査では、クマタカやミサゴといった猛禽類の出現があり、機材の扱い方のコツを掴んで撮影に成功する受講生もいました。



受講生が撮影したクマタカ成鳥

3日目は、クマタカのつがいが生息している国有林において、2日目と同様に観察調査を実施するとともに、クマタカが繁殖の場所として利用している森林の状況を観察しました。また、講習会のとりまとめの際には、クマタカの営巣場所に近接している人工林における今後の施業方法等について、他地域での先行事例等を参考に講師役の職員と受講生が意見交換を行いました。

東北森林管理局としては初の取組み

となりましたが、これまでにない講義メニューにより受講生の評価も高かったことから、引き続き、同様の講習会を岩手県内で開催する予定です。



クマタカが営巣している場所での森林施業に関する意見交換